

EMECS 2001

第2回アナウンスメント



21世紀の人と自然の共生のための
沿岸域管理に向けて

第5回世界閉鎖性海域環境保全会議

会期:2001年11月19日(月)~22日(木)

会場:神戸市/淡路島



EMECS 2001

お問い合わせ

会議の内容およびテクニカルツアー

第5回世界閉鎖性海域環境保全会議実行委員会事務局

〒651 - 0073

神戸市中央区脇浜海岸通1丁目5 - 1

国際健康開発センタービル 財団法人 国際エメックスセンター内

TEL : 078 - 252 - 0234 FAX : 078 - 252 - 0404

E-MAIL : 2001@emecs.or.jp

参加登録および発表要旨募集

EMECS2001登録事務局

〒530 - 0001

大阪市北区梅田2丁目4 - 9 サンケイビル本館6F

(株)ジェイコム 企画情報室内

TEL : 06 - 6348 - 0815 FAX : 06 - 6348 - 0175

E-MAIL : emecs2001reg@jtbcom.co.jp

宿泊およびオプションツアー

JTB団体旅行神戸支店 担当:松本、馬場、青木

〒650 - 0021

神戸市中央区三宮町1丁目3 - 1 神戸Fビル7階

TEL : 078 - 391 - 6951 FAX : 078 - 391 - 6958

E-MAIL : danryokobe_ei@kns.jtb.co.jp

(営業時間: 平日9:00~17:00 土・日・祝休業)

各締切日一覧

発表要旨提出	2001年 6月30日(土)
* 発表者は10月1日(月)までに必ず参加登録してください。	
参加登録	
・ 早期登録	2001年 6月30日(土)
・ 後期登録	2001年10月18日(木)
・ 1日登録	2001年10月18日(木)
宿泊・オプション ツアーお申し込み	2001年10月18日(木)

EMECS 2001

第2回アナウンスメント

目 次

ごあいさつ	2
会議の趣旨	3
会議の概要	4
プログラム	5
分科会発表要旨募集テーマ	6
サイドプログラム	7
発表要旨募集のご案内	8
参加登録のご案内	10
宿泊のご案内	12
ホテル・会場のご案内	13
オプションツアーのご案内	14
会場へのアクセス	16
実行委員会組織図 / 名簿	17

21世紀を迎え、地球環境保全の分野においても、気持ちを新たに取り組みが行われておりますが、閉鎖性海域の環境保全についても例外ではありません。本年11月神戸において第5回世界閉鎖性海域環境保全会議を開催します。

20世紀において、瀬戸内海をはじめとする閉鎖性海域は、その沿岸域に住む人々に大きな恵みを与えましたが、人口の増大や産業の発展に伴い、環境汚染という深刻な問題を抱えることとなりました。1960年代後半は瀬戸内海にとって最悪の時代でありましたが、そうした環境の危機に接した人々の英知と努力から環境の汚染の進展がくい止められ、さらに環境を修復しようという努力が行われています。

そうした人々が、他の閉鎖性海域の環境保全に取り組む人々にそれまでの経験を伝え、また、自らも学ぶということから、EMECS(エメックス)という活動が1990年神戸で生まれ、それがチェサピーク湾、バルト海、黒海、地中海など世界の閉鎖性海域の環境保全に携わる人々の国際的なネットワークに発展し、既に10年になりました。

振り返りますと、この10年の間に私たちを取り巻く状況は大きく変化しました。日本における環境保全に対する考え方も、水質改善、有害物質規制など公害防止対策中心から、環境基本計画に見られるように、生物多様性の保全、健全な水循環の回復と確保、物質循環の促進、豊かな自然との触れあいの確保など幅広く環境を保全するものに変化してきました。また、環境の研究や改善に努力を惜しまない若い研究者も増加し、環境関連技術も大きく進歩してきました。一方、一般市民の意識も大きく変化してきています。

こうした背景のもとで開催します第5回世界閉鎖性海域環境保全会議は、世界の科学者、行政や企業関係者、市民が集まり、閉鎖性海域の環境保全のためにこれまで何をしてきたのか、また、これから何をしてゆくのかを検証する国際会議です。この会議に多くの方々にご参加いただき、環境の修復と創造という視点から、将来の閉鎖性海域の環境保全を推進する上で極めて重要な会議となることを期待してやみません。



近藤次郎

第5回世界閉鎖性海域環境保全会議実行委員会
会長

内湾、内海、河口域など陸域に囲まれた閉鎖性の高い海域は、その恵まれた自然条件ゆえに、古くから漁場、産業活動の場、海上交通及びレクリエーションの場として利用され、その沿岸域に住む人々の豊かな日常生活を支えるとともに様々な文化を育んできました。

しかし、こうした閉鎖性海域は海水の交換が悪く、環境汚染に対して脆弱であるという性質を有することから環境の保全には特別の配慮が必要とされてきました。

世界閉鎖性海域環境保全会議（EMECS会議）は、このような人類共通の財産である閉鎖性海域の恵沢を次世代に継承していくことが大きな責務であるという観点にたち、1990年（平成2年）に神戸の地において世界の科学者、行政担当者、企業関係者、市民、NGO等が一堂に集い第1回が開催されました。以後10年、世界各地で3回にわたる会議が開催され、それぞれに大きな成果をあげています。

しかし、この間の様々な努力にもかかわらず、世界各地の多くの閉鎖性海域では、生物生息環境の悪化、生物種・個体数の減少、漁獲量の減少が生じており、このままでは閉鎖性海域の環境は更に悪化の一途をたどり、ひいては地球全体の環境にも大きな影響を与えるものと危惧されています。

一方、環境に対する市民意識の変化に伴い、環境保全に対する考え方も、当初の水質改善、有害物質対策等の公害対策中心のものから、生物多様性の保全、健全な水循環の回復・確保、豊かな自然との触れ合いの確保など幅広い環境保全を目指すものに変化してきました。

21世紀初頭に再び神戸の地で開催する「第5回世界閉鎖性海域環境保全会議」ではこれまでのEMECS活動を総括し、検証するとともに20世紀において解決できなかった閉鎖性海域が直面する次のような様々な課題のあり方について科学者、行政担当者、企業関係者、市民、NGO等が意見交換します。

- (1) 閉鎖性海域の環境修復・創造
- (2) 科学者、行政担当者、企業関係者、市民、NGOの参加と連携
- (3) 情報技術の発展を社会的背景として新たな活動の構築
- (4) 陸域と海域のGovernance（ガヴァナンス）
- (5) 21世紀を担う子供たちに向けた環境教育

また、新たなネットワークと地域、世代、組織を越えたパートナーシップの形成のもとに閉鎖性海域毎の地理的、自然的、社会経済的な条件を考慮しつつ、環境修復・創造の観点から生活、産業等を含む人間と自然との共生の場として一体的、総合的に保全していくため、第5回世界閉鎖性海域環境保全会議を、新しい世紀における世界の閉鎖性海域環境保全活動のための具体的な方策を提言する「新たな出発点」とします。

会議の概要

1. メインテーマ

21世紀の人と自然の共生のための沿岸域管理に向けて

2. 開催時期

2001年11月19日(月)～22日(木)

3. 開催地

神戸市及び淡路島

4. 使用言語

英語、日本語 *同時通訳が行われます。

5. 主催

環境省、兵庫県、神戸市、(財)国際エメックスセンター

6. 実施主体

第5回世界閉鎖性海域環境保全会議実行委員会

7. 特別協力

環境事業団、国際交流基金、国際協力事業団、日本財団、瀬戸内海環境保全知事・市長会議、アジア太平洋地球変動研究ネットワーク(APN)、(社)瀬戸内海環境保全協会、(財)兵庫県環境クリエイティブセンター、(財)ひょうご環境創造協会、(財)兵庫県水産振興基金、(財)神戸国際観光コンベンション協会、(財)イオングループ環境財団、(財)安田火災環境財団、日本環境教育学会
(協力申請中の団体を含みます)

8. 後援

国際連合環境計画、経済協力開発機構、国際連合地域開発センター、国連大学、外務省、水産庁、経済産業省、国土交通省、全国知事会、全国都道府県議会議長会、全国市長会、全国市議会議長会、全国町村会、全国町村議会議長会、全国閉鎖性海域環境保全連絡会、(社)経済団体連合会、(社)関西経済連合会、神戸商工会議所、水産海洋学会、瀬戸内海研究会議、(社)土木学会、日本沿岸域学会、(財)日本水産学会、(社)日本都市計画学会、(社)日本水環境学会、日本藻類学会、(社)日本リモートセンシング学会、(社)海と渚環境美化推進機構、(財)大阪湾ベイエリア開発推進機構、(財)沿岸開発技術研究センター、(社)海洋産業研究会、海上災害防止センター、海洋科学技術センター、(社)海洋調査協会、(財)環日本海環境協力センター、(社)港湾空間高度化センター、(財)国際湖沼環境委員会、(財)国際臨海開発研究センター、(財)国立公園協会、(財)シップ・アンド・オーシャン財団、(社)全国海岸協会、全国漁業協同組合連合会、(財)地球環境センター、(財)地球環境戦略研究機関、「地球環境と世界市民」国際協会、(社)日本海洋開発建設協会、(社)日本海洋開発産業協会、(財)日本海洋レジャー安全・振興協会、(財)日本気象協会、(社)日本マリナービーチ協会、(社)マリノフォーラム21 (後援申請中の団体を含みます)

プログラム

区分	月日	行事	会場
	11月18日(日)	参加登録 テクニカルツアー	
第1日目	11月19日(月)	開会式 基調講演・特別講演 オープニングパーティー	神戸市内のホテル
第2日目	11月20日(火)	特別セッション (アジアフォーラム NGOフォーラム) 分科会 ポスターセッション	ポートアイランド
第3日目	11月21日(水)	分科会 ポスターセッション	ポートアイランド
第4日目	11月22日(木)	瀬戸内海セッション 総括全体会議 閉会式 さよならパーティー	淡路夢舞台

*ポートアイランド内から淡路夢舞台まで送迎バスの運行を予定しています。

特別セッション等

特別セッション

アジアフォーラム / テーマ: アジアの持続可能な発展と沿岸域環境の保全

共催: アジア太平洋地球変動研究ネットワーク(APN)

NGOフォーラム / テーマ: 沿岸域の環境の保全・創造に対するNGOの果たす役割と行動

瀬戸内海セッション / テーマ: 21世紀における新たな瀬戸内海の環境の保全・修復・創造

瀬戸内海で何が行われ、何が行われなかったか、今後何をすべきか

共催: (社)瀬戸内海環境保全協会

総括全体会議 / テーマ: 海の環境を守り次世代に引き継ぐために

市民参加と連携: ガバナンスにむけたアプロ-チ

EMECS活動10年の総括と21世紀における活動戦略

テクニカルツアー

1 予定日時 2001年11月18日(日) 午後1時～午後6時30分 5時間30分程度

2 参加費 1人 2,500円

3 コース

Aコース「瀬戸内海の環境を見る(大阪湾一周コース)」

大阪湾を一周し、途中、大阪湾の環境保全について解説

Bコース「関西国際空港の傾斜護岸と大阪湾のなぎさ探訪コース」

環境創出事例として関西国際空港の傾斜護岸を見学し、大阪湾奥部の埋め立て地の現状を視察

Cコース「阪神淡路大震災からの復興と人工海浜の探訪コース」

神戸港の震災からの復興をみたのち、環境創出事例として神戸舞子、明石大蔵などの人工海浜を視察

分科会発表要旨募集テ - マ

口頭発表、ポスタ - 発表



第1回EMECS会議

1 沿岸域におけるモニタリングと環境情報の果たす役割

- 1 - 生態系のモニタリングと数値生態系モデル
- 1 - 生態系のマップ作成
- 1 - 気候変動と海洋環境モニタリング
- 1 - 効果的な環境情報の共有とその手法
- 1 - 変化の把握と有効な情報提供システムのあり方

2 陸域と海域の相互作用と理解

- 2 - 陸水と海水との相互作用
- 2 - 湿地、沿岸海域の水質に対する様々な寄与と水循環
- 2 - 環境ホルモン等有害物質による影響と相互作用
- 2 - 海域における汚濁機構、汚濁物質の流入負荷と変動
- 2 - 汚濁物質の排出削減と制御 - 生活系、産業系、農業系や下水処理等における取り組み
- 2 - 生物資源の持続性と漁業



第2回EMECS会議

3 沿岸域の環境修復・創造と都市再生に向けた取り組み - システム、技術、文化、自然

- 3 - 生物多様性の確保と破壊された浄化能力修復のための技術
- 3 - 自然景観、緑の保全と修復
- 3 - 海の文化、歴史、景観へのアプローチ
- 3 - 沿岸域の修復・創造と費用対効果
- 3 - 健全な開発と沿岸域の修復・創造、都市再生に向けた様々なプログラム
- 3 - 環境修復と都市再生の取り組み



第3回EMECS会議

4 沿岸域の環境保全と環境教育・実践活動

- 4 - 循環型社会形成と沿岸域における環境教育
- 4 - 学校教育・社会教育と沿岸域における環境教育
- 4 - 沿岸域の自然保護活動と環境教育プログラム
- 4 - 沿岸域のエコツ - リズムと環境教育
- 4 - 企業活動と環境教育
- 4 - 環境教育と沿岸域の環境情報



第4回EMECS会議

5 沿岸域環境管理における参加と連携 - ガバナンスにむけたアプローチ

- 5 - 沿岸域管理のための仕組みと法制度
- 5 - 沿岸域環境管理における環境情報の役割
- 5 - 沿岸域の環境に関する研究成果の環境政策、環境保全活動への反映方策
- 5 - 沿岸域環境の保全技術と企業、市民、NGOにおける対応、活動のあり方
- 5 - 環境問題における不確実性と政策決定
(市民、企業、研究者、政策決定者等それぞれの立場から)

サイドプログラム

会 期：2001年11月18日(日)～19日(月)2日間

会 場：神戸国際展示場 1号館

(1)「環境修復・創造エキスポ」- 沿岸域環境修復・創造技術展 - ～ 沿岸域の環境、その未来 ～

21世紀の沿岸域環境の修復・創造と都市再生にむけて、企業、大学、研究機関、行政機関等の参加のもと、新たな環境修復・創造と都市再生に関する技術開発や研究成果及びその事例・取組みを展示し、参加者が共に考え、学び、連携する場として環境修復・創造エキスポを開催する。

展示内容は、沿岸海域における様々な最新の環境修復・創造技術とその先進事例を展示し、環境修復・創造の取組みについて、情報交換や人的交流、技術移転のきっかけ作りの場とする。

出展者：一般展示 / 企業、行政機関等
特別展示 / 大学、研究機関、行政機関等

テーマ展示：財団法人 国際エメックスセンター
国際エメックスセンターが提唱する新たな閉鎖性海域の環境修復と創造への取組みやセンターの役割と活動経過を展示し、今後世界がすすむ方向を示す。

一般展示

親水空間の創出技術	： 緑地・緑化 階段式護岸 遊歩道 海釣り公園
湿地(塩性湿地)の造成技術	： 野鳥園の造成 ヨシ原造成 人工ラグーン
護岸構造への機能付加技術	： 緩傾斜石積み構造 礫間接触浄化構造 曝気構造 透過式構造
浅場の造成技術	： 人工砂浜 人工干潟 人工磯 人工リーフ
藻場の造成技術	： アマモ場 ガラム場
底質改善技術	： 浚渫覆砂ベントス利用改良材散布 作零 導流堤
生息場の創出技術	： 産卵礁設置魚礁設置
水質改善技術	： 下水処理 水処理

企業展示：環境コンサル企業、土木関連企業、海洋土木関連企業、建設関連企業等

プロジェクト展示：環境修復・創造事業を実施した(実施している)事業者、行政機関等
関西、日本各地のプロジェクトにおける環境修復・創造事例の展示

特別展示：大学、研究機関、行政機関等
大学および環境関連の研究機関等の調査研究・実施事例の展示



(2)「環境教育フェア」- 国際環境教育用教材展 - ～ 子供たちの明日に美しい沿岸域を残すために ～

子ども達が人間と環境との関わりについて理解と学習を深めるための環境教育に関する教材及び環境保全活動の事例等を内外より一堂に集めたフェアを開催する。

本フェアを通じて、学校・企業や地域社会と連携を図りつつ沿岸域の環境教育活動や環境保全活動を展開していくことの重要性をアピールするとともに内外のNGO、NPO、研究者、行政担当者、企業関係者等による交流と新しいネットワークの構築をめざす。

そして、国内外の環境教育や環境保全活動関係者の人的・情報交流を通して、新たな沿岸域の環境教育や環境保全活動の在り方を目指すきっかけとするとともに社会教育、学校教育の現場での具体的なアクションに結び付けることを目的とする。

出展者：環境教育関連団体、国、自治体、研究機関、国内外のNGO・NPO、教育関連企業、出版関連企業等

環境教育用教材展示： 海外の環境教育用教材の展示 国内の環境教育用教材の展示
各国の環境教育用VTRの上映 各国の環境教育用 CD-ROMの展示

環境教育ライブラリー：国内及び海外の環境教育関連図書の展示

活動PRコーナー：自治体、NGO・NPO団体等の活動内容を展示
様々な環境教育や環境保全の活動報告セミナー



発表要旨募集のご案内

締切:2001年6月30日(土)

【郵送の場合は 7月2日(月)必着】

第5回世界閉鎖性海域環境保全会議は幅広い分野からの参加者が議論し、交流を図る場です。そのため学術研究者だけでなく、NGO、企業、行政担当者や一般の方からも本会議の発表を募集します。

発表を希望される方は、以下の要項にしたがって「発表要旨」を提出してください。

第5回世界閉鎖性海域環境保全会議では、若手研究者、NGOの発表を積極的に採用する予定です。ご自身の研究活動を発表する良い機会として、また、この分野にかかわる多くの方々との交流の機会として、ふるってご応募ください。

提出にあたっての注意事項 - ご提出はEMECS2001ホームページの利用又は郵送に限ります -

1. 参加登録(登録料等の支払を含む)は必ず2001年10月1日(月)までに完了してください。
2. 発表者は必ず全日登録で申し込んでください。
3. 発表内容は過去の国際会議等で未発表であるものに限りません。
4. 発表要旨は、原則として英文で提出してください。(英文で要旨提出が困難な場合は和文でも受け付けます。ただし採択された場合、英文要旨を提出していただきます。)
5. ファクスまたは持ち込みによる受付はいたしません。

ホームページを利用する場合

URL:<http://emecs2001.jtbcom.co.jp>
EMECS2001ホームページから簡単に発表要旨の提出ができます。
ホームページ上のご案内に従って、ご応募ください。

郵送の場合

本誌に挿入されている
発表申込書(Form A)
発表要旨記入用紙
(Form B)をご利用ください。

発表申込書(Form A)の記入方法

1. 記入欄すべてに必要な事項を明記してください。発表を希望するテーマについては、6ページに記載されているテーマから選択してください。(第1~3希望まで)
2. 発表内容を簡潔に表現するキーワード(5コ程度)を記入してください。
3. 発表形式については、口頭(オーラル)ポスターまたは、どちらでも良いのいずれかを選択してください。

発表要旨記入用紙(Form B)の記入方法

別紙記入例を参考にし、下記の点に注意しながら作成してください。

1. 発表要旨のタイトル 大文字(例: ABC)太字でご記入ください。
2. 著者名(共同著者名) Family Name, First Name(Middle Initial)の順でご記入ください。
発表者にはアンダーラインを引いてください。
3. 所属 著者名(共同著者名)の次の行に記入してください。
発表者のみ所属の都市名、国名も記入してください。
所属が複数にわたる場合は、番号を振って区別してください。
4. 発表要旨(本文) 英文: 450語以内、11または12ポイント
Times (もしくは似たフォント)、行間なし
和文: 750字以内、11または12ポイント
明朝体(もしくは似たフォント)
*和文で記入された場合は、記入用紙の約3分の1程度が余白になります。
5. 左上の網掛けスペース 登録事務局使用欄サイズ: 25mm×35mm
(プログラム番号を記入しますので、何も記入しないでください)

直接用紙に印字できない場合は、白の上質紙(A4サイズ)に上下左右25mmの余白を残して作成してください。

提出された発表要旨は、当日参加者に配布される発表要旨集の印刷原稿となります。提出後は、内容の変更や字句の訂正などには応じられません。また、そのままホームページで公開されることもありますのでご了承ください。

送付物	発表申込書(Form A)	1部
	発表要旨記入用紙(Form B)	英文 1部
	上記のコピー	3部
	*用紙全体(A4サイズ)をコピーしてください。	
	上記のデータを入れたフロッピー マイクロソフトワード95以上あるいは、 プレーンテキスト	
	*書類保護のため、保護用紙(厚紙など)を同封してください。	

送付先 EMECS2001登録事務局
〒530-0001 大阪市北区梅田2-4-9 サンケイビル本館6F
(株)ジェイコム 企画情報室内

受付確認書 発表要旨受付後、受付確認書を郵送またはファクスでお送りします。

審査結果の通知 応募された発表要旨は、第5回世界閉鎖性海域環境保全会議実行委員会プログラム部会で公正な審査の上、採否を決定いたします。また、発表要旨を提出された方には、8月末までに採否の結果を郵送でお知らせいたします。

採用された方には、発表方法及び次の学術論文集に掲載する発表論文の提出等のご案内をお送りいたします。提出された発表要旨は、採否の如何に拘わらず返却いたしませんので、ご了承ください。

参加経費の助成 採用された発表要旨の中から、開発途上国及びNGO等からの発表者を対象として、参加経費を助成いたします。希望者は応募用紙の参加経費助成希望欄にチェックしてください。第5回世界閉鎖性海域環境保全会議実行委員会総務広報部会で公正な審査をいたします。助成希望者には採否通知とともに詳細をご連絡いたします。ご希望の全てには応じられませんので、予めご了承ください。

なお、参加登録料等、事前入金が必要なものは、助成の有無に関わらず期限までにお支払いください。お支払いのない場合は未登録扱いとなり、助成対象外となりますのでご注意ください。

学術論文集の刊行 第5回世界閉鎖性海域環境保全会議の学術論文集につきましては、会議後、パーガモン社から「Marine Pollution Bulletin」のSupplementとして出版の予定で、詳細は後日発表者にご案内いたします。なお、本論文集への発表論文掲載につきましては、別に設ける編集委員会による審査を行いますので、予めご了承ください。

参加登録のご案内

早期登録締切:2001年6月30日(土)

後期登録締切:2001年10月18日(木)

1日登録締切:2001年10月18日(木)

第5回世界閉鎖性海域環境保全会議に参加を希望する方は、原則として事前に参加登録をしてください。参加登録はEMECs2001ホームページ、参加登録用紙(Form C)により郵送またはファクスで行うことができます。参加の方法は、会議の全会議等(テクニカルツアーやパーティーを除く)に参加できる「全日登録」と会期中の1日だけ参加できる「1日登録」があります。登録の申込日によって、以下のとおり参加登録料が異なりますのでご注意ください。

参加登録料

区分	早期登録 2001年6月30日まで	後期通常登録 7月1日から10月18日まで	1日登録 2001年10月18日まで
一般	¥18,000	¥20,000	¥3,000
学生	¥9,000	¥10,000	¥2,000

10月19日以降は当日会場にてご登録ください。

当日、会場で登録をされる場合は、7月1日以降の参加登録料になります。当日登録者につきましては、会場の収容人数によって会議への参加が制約されることがありますので、ご了承ください。

参加登録料に含まれるものと別途料金が 必要なもの

	月日	内容	全日登録	1日登録	料金
会議への参加	11/18	テクニカルツアー			¥2,500
	11/19	開会式 基調講演・特別講演 オープニングパーティー			¥2,500
	11/20	特別セッション 分科会 ポスターセッション			
	11/21	分科会 ポスターセッション			
	11/22	瀬戸内海セッション 総括全体会議 閉会式 さよならパーティー			¥2,500
会費 議料	プログラム				
	発表要旨集				¥6,000

学術論文集

9ページをご参照ください

参加登録にあたっての注意事項

- 1日登録は、登録された日の会議のみに参加できます。
1日登録の申込みは、1名あたり合計2日までとします。
- 発表者は、必ず10月1日(月)までに全日登録を申し込んでください。
- 発表要旨集は、全日登録者に無料で配布します。1日登録者には別途有料で配布しますので、ご希望の方は、参加登録用紙にて事前にお申し込みください。なお、当日会場でご購入いただくこともできますが、作成部数の関係でご希望に沿えない場合はご容赦ください。
- テクニカルツアー、オープニングパーティー、さよならパーティーに参加をご希望の方は、参加登録料に加えて、上記の別途料金を登録申込時にお支払いください。
- 学生料金で申し込まれた方は、当日会場の受付で学生証明書をご提示いただきます。

<

*登録の際には、できるだけホームページをご利用ください。

ホームページを
利用する場合

URL: <http://emecs2001.jtbcom.co.jp>
EMECS2001ホームページから簡単に参加登録と登録料金のお支払いができます。
ホームページ上のご案内に従って、お申し込みください。

郵送または
ファクスの場合

本誌に挿入されている
参加登録用紙(Form
C)をご利用ください。

- 1 本誌に挿入されている登録用紙(Form C)に必要事項をご記入の上、事務局までお送りください。
- 2 「参加者名」「所属団体・部署」「住所」「同伴者名」は必ず日/英共にご記入ください。
- 3 ご登録は会議参加者1名ごとに1枚ご記入ください
- 4 テクニカルツアー、パーティーのみに参加される同伴者は、登録用紙の「同伴者」の欄にご記入ください。

送付先 EMECS2001登録事務局
〒530-0001
大阪市北区梅田2-4-9 サンケイビル本館6F
(株)ジェイコム 企画情報室内
TEL:06-6348-0815 FAX06-6348-0175
E-mail:emecs2001reg@jtbcom.co.jp

お支払方法

以下の通り、クレジットカードまたは、銀行振込みでお支払いください。

クレジットカード

VISA、MasterCard、AMEXのみご利用いただけます。参加登録用紙(Form C)のクレジットカード情報記入欄に必要事項をご記入いただき、郵送またはファクスで登録事務局までお送りください。
電子メールでのクレジットカードナンバーの通知はセキュリティ上問題がありますのでお避けください。

銀行振込

振込用紙の控えまたは控えのコピーを参加登録用紙(Form C)と一緒に、郵送またはファクスで登録事務局までお送りください。なお、登録料の振込みを確認次第、登録完了とさせていただきます。
恐れ入りますが、手数料はご負担ください。

振込口座: さくら銀行 神戸公務部
(普)041620
EMECS2001登録事務局
なかしまくにひろ
代表者 中嶋邦弘

*国際郵便為替

外国からの参加者につきましては、国際郵便為替でもお支払いいただけます。

受付確認書

参加登録用紙受領時の受付確認書は発行いたしません。

登録完了確認書

参加登録用紙を事務局が受領し、登録料の入金が確認されたことをもって、登録が完了いたします。
登録の完了後登録事務局より登録完了確認書を郵送いたします。
なお、会議当日は登録完了確認書をご持参ください。

登録の変更・
キャンセルについて

キャンセルおよび変更のご連絡は必ず書面にてお願いいたします。キャンセルまたは変更される方は登録番号・お名前・キャンセルの内容を明記の上、電子メール、郵送またはファクスで登録事務局までお送りください。

キャンセル料は次のとおりです。

	キャンセル料
2001年9月30日まで	無料 (振込手数料を除き全額返金)
10月1日から 31日まで	登録料の50%
11月1日以降	登録料の100%

宿泊のご案内

締切:2001年10月18日(木)

宿泊期間 2001年11月17日(土)~23日(金)

宿泊料金 1. 1泊朝食付・税金・サービス料込のお1人様当りの料金です。
2. 期間中は大変混雑が予想されますので、お早めにお申し込みください。ご希望のホテルが満室の場合は、他のホテルをご案内させていただきますので、予めご了承ください。

ホテル名	シングル	ツイン(1名様)	ツイン(2名様)
ポートピアホテル	¥12,600	¥17,800	¥11,500
ホテルオークラ神戸	¥17,400	¥23,100	¥14,200
ウェスティンホテル淡路リゾート&コンファレンス	-	¥13,200	¥10,300
神戸東急イン	¥11,000	¥15,800	¥9,900
神戸ワシントンホテルプラザ	¥10,400	¥11,500	-
ホテルゴーフル神戸	¥10,500	¥12,800	¥10,200
神戸三宮ユニオンホテル	¥8,700	¥12,800	¥7,500
グリーンヒルホテル神戸	¥8,500	¥10,500	¥7,500
サンサイドホテル	¥7,300	-	-

ホームページを利用する場合 URL : <http://emecs2001.jtbcom.co.jp>
EMECS2001ホームページから簡単に宿泊の申し込みとお支払いができます。
ホームページ上のご案内に従って、お申し込みください。

郵送またはファクスの場合 別紙申込用紙(Form D)に必要事項をご記入の上、郵送またはファクスにてお申し込みください。

申込先 JTB団体旅行神戸支店 担当: 松本、馬場、青木
〒650-0021 神戸市中央区三宮町1-3-1 神戸Fビル7階
Tel:078-391-6951 Fax:078-391-6958
E-mail: danryokobe_ei@kns.jtb.co.jp
(営業時間: 平日9:00~17:00 土・日・祝休業)

受付確認書 お申し込みを受付し、入金確認後、受付確認書を郵送またはファクスでお送りいたします。

予約金および通信費 予約金として、1部屋につき7,000円及び1件につき500円の通信費をいただきます。予約金及び通信費は、お申し込みされた日から1週間以内にお支払いください。(申込用紙に振込予定日をご記入ください。お支払いが遅れる場合はご連絡くださいますようお願いいたします。)

送金方法 クレジットカード(申込用紙に必要事項をご記入ください。10月上旬からお引落しいたします。)
電子メールでのクレジットナンバーの通知はセキュリティ上問題がありますのでお避けください。
銀行振込: 富士銀行 神戸支店(普) 1887238
JTB団体旅行神戸支店(恐れ入りますが、手数料はご負担ください。)
*外国からのお申し込み者につきましては、国際郵便為替でも対応しています。

宿泊内容確認 宿泊クーポン、ホテル所在地図は10月中旬に発送いたします。なお、宿泊当日は宿泊クーポンをご持参ください。

清算方法 お支払いいただいた予約金を差し引いた料金を当日ホテルにて直接ご清算ください。

宿泊の変更・キャンセルについて キャンセル及び変更される場合は、お早めに文書(ファクス等)にて上記申込先までご連絡ください。次のキャンセル料および通信費を差し引いた残額を、後日ご返金いたします。

	8日前より5日前まで	4日前より前日まで	当日以降
キャンセル料	2,000円	3,000円	宿泊料の100%

*連絡なしの宿泊につきましても、宿泊料の100%をご請求させていただきますのでご注意ください。

ホテル・会場のご案内

ホテル・会場案内図



各ホテルへのアクセス

ポートピアホテル
 ホテルオークラ神戸
 ウェスティンホテル淡路
 (国際会議場に隣接)

神戸東急イン
 神戸ワシントンホテルプラザ
 ホテルゴーフル神戸
 神戸三宮ユニオンホテル
 グリーンヒルホテル神戸
 サンサイドホテル

ポートライナー「市民広場前」駅 徒歩3分
 JR「元町」駅 徒歩15分
 JR「舞子」駅より路線バスで約20分
 *「舞子」駅へはJR「三ノ宮」駅から約25分
 JR「新神戸」駅から路線バスで約55分
 JR「三ノ宮」駅から路線バスで約45分
 JR「三ノ宮」駅 徒歩3分
 JR「三ノ宮」駅 徒歩8分
 ポートライナー「市民広場前」駅 徒歩3分
 JR「三ノ宮」駅 徒歩10分
 JR・地下鉄「新神戸」駅 徒歩5分
 JR「三ノ宮」駅 徒歩5分

オプションツアーのご案内

募集人数:各コース 40名

旅行日:11月20日(火)・21日(水)・22日(木)・23日(金)・24日(土)

全ツアー観光通訳ガイド(英語)のご案内します。

1~6は全日程添乗員が同行します。

1.京都1日観光

日程:11月20日(火) 9:00~18:00頃

行程:ポートピアホテル 金閣寺 嵐山散策及び昼食 清水寺 ポートピアホテル

料金:14,000円 催行人数:20名

2.姫路城半日観光・午後発

日程:11月21日(水) 13:00~18:30頃

行程:ポートピアホテル 世界遺産・姫路城 好古園 ポートピアホテル

料金:9,500円 催行人数:20名

3.神戸夜景ディナークルーズ

日程:11月21日(水) 18:00~21:30頃

行程:ポートピアホテル ハーバーランド・・・ディナークルーズ・・・ ポートピアホテル

料金:18,000円 催行人数:20名

4.テイステイングツアー

日程:11月20日(火) 18:00~21:00頃

行程:ポートピアホテル 神戸酒心館(酒テイステイング) すしディナー ポートピアホテル

料金:12,000円 催行人数:20名

5.神戸市内1日観光

日程:11月21日(水) 8:30~17:00頃

行程:ポートピアホテル 沢の鶴記念館(利き酒) 有馬温泉 表六甲・六甲山頂(ケーブル)
三宮駅

料金:18,000円 催行人数:20名

6.ユニバーサルスタジオ1日観光

日程:11月22日(木) 10:00~17:30頃

行程:ポートピアホテル ユニバーサルスタジオジャパン(入場・昼食) ポートピアホテル

料金:16,000円 催行人数:20名

7.京都1日観光・京都発着

日程:毎日 8:30~17:30頃(主催:JTBサンライズツアー)

行程:京都駅 二条城 金閣寺 京都御所 東本願寺 ハンディクラフトセンター(昼食)
平安神宮 三十三間堂 清水寺 京都駅

料金:11,200円 催行人数:2名

8.広島・倉敷1泊2日ツアー・大阪発着

日程:11月23日(金)~24日(土) 7:35~18:30頃(主催:JTBサンライズツアー)

行程:1日目 大阪駅 宮島 平和記念公園

2日目 大原美術館 倉敷民芸館 倉敷国際ホテル(昼食) 岡山 後樂園 大阪

料金:84,500円 催行人数:2名

締切:2001年10月18日(木)

ホームページを
利用する場合

URL: <http://emecs2001.jtbcom.co.jp>
EMECS2001ホームページから簡単にオプションツアーのお申し込みとお支払いができます。ホームページ上のご案内に従って、お申し込みください。

郵送または
ファクスの場合

本誌に挿入されている
宿泊・オプションツ
アー申込用紙(Form
D)をご利用ください。

別紙申込用紙(Form D)に必要事項をご記入の上、郵送またはファクスにてお申し込みください。

申込先 JTB団体旅行神戸支店 担当:松本,馬場,青木
〒650-0021
神戸市中央区三宮町1 - 3 - 1 神戸Fビル7階
Tel: 078 - 391 - 6951 Fax: 078 - 391 - 6958
E-mail: danryokobe_ei@kns.jtb.co.jp
(営業時間: 平日9:00 ~ 17:00 土・日・祝休業)

受付確認書

お申し込み受付後、受付確認書を郵送またはファクスでお送りいたします。

ツアー案内の可否の
「予約完了確認書」
の送付

お申し込み締切後、催行可否のご案内を「ツアー予約完了確認書」「ツアー代金請求書」とともに送付いたします。ご案内到着後1週間以内にツアー代金をお支払いください。また、ツアー参加当日は「ツアー予約完了確認書」をご持参ください。

送金方法

クレジットカード(申込書に必要事項をご記入ください。10月上旬からお引落しいたします。)
メールでのクレジットナンバーの通知はセキュリティ上問題がありますのでお避けください。
銀行振込: 富士銀行 神戸支店(普)1887238
JTB団体旅行神戸支店(恐れ入りますが、手数料はご負担ください。)
*外国からのお申し込み者につきましては、国際郵便為替でも対応しています。



金閣寺



三十三間堂

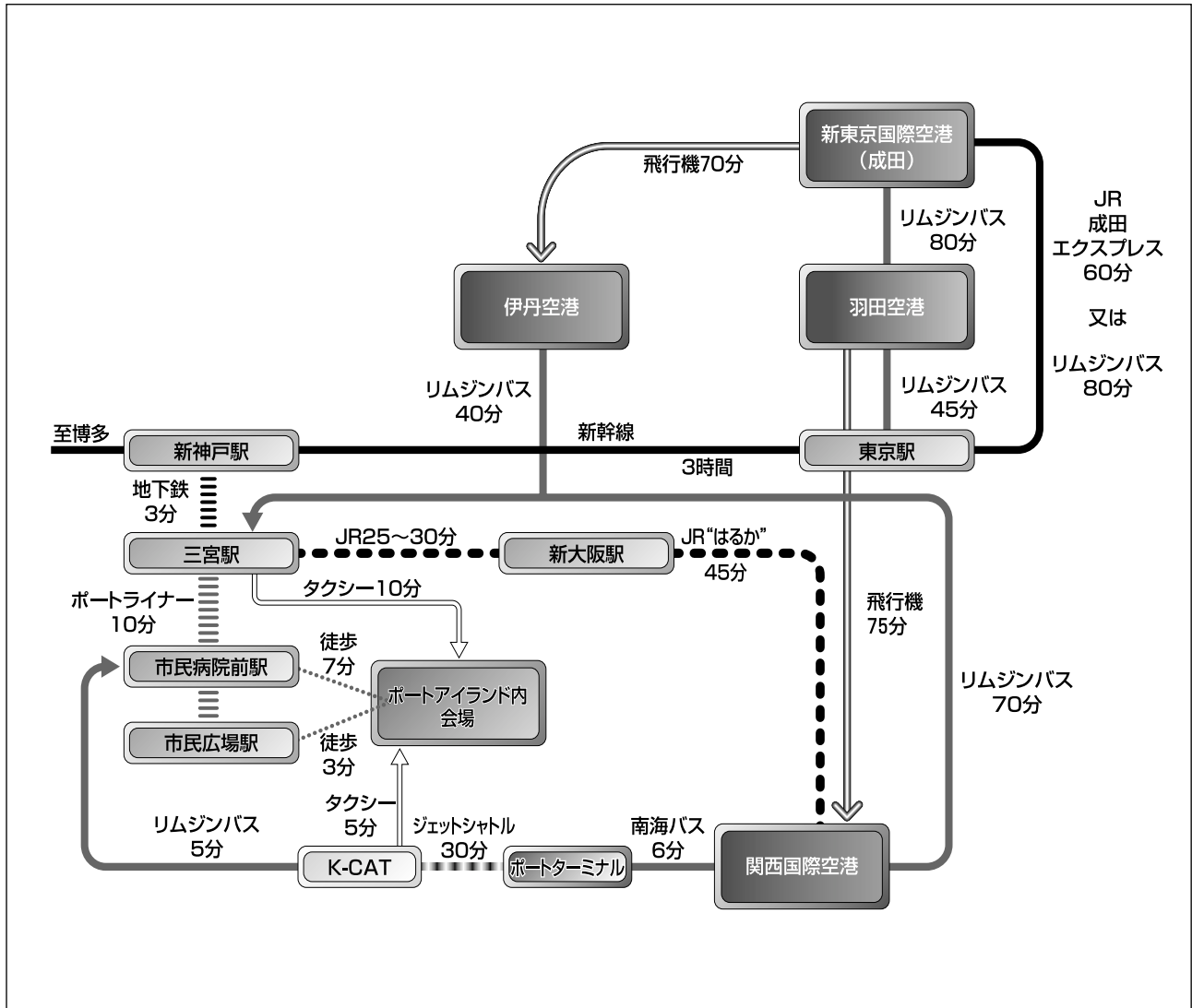


平安神宮

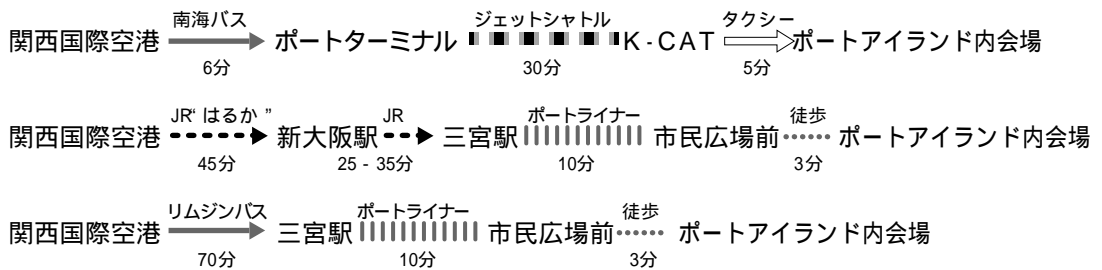


姫路城

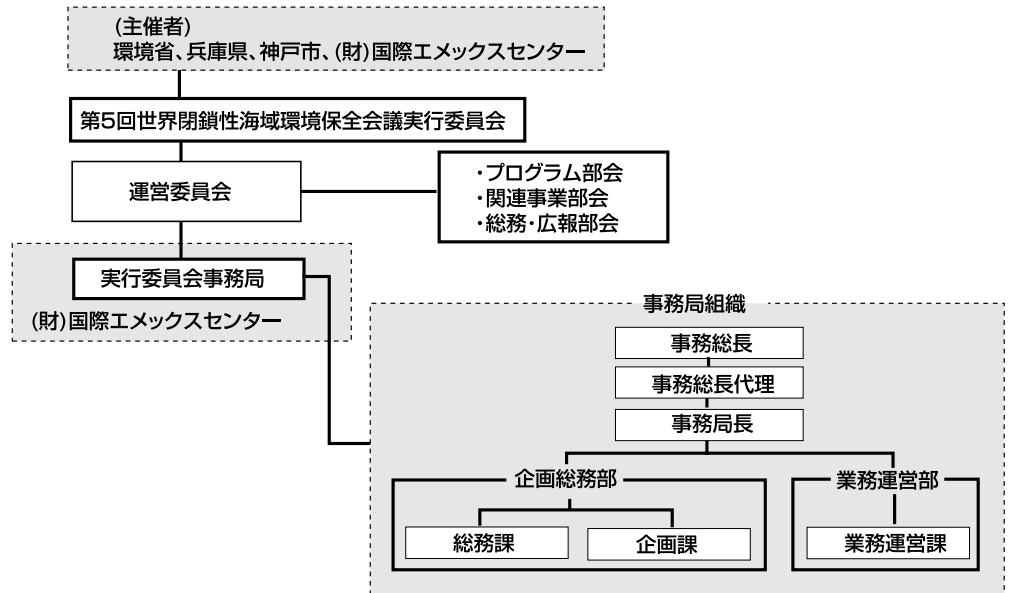
会場へのアクセス



関西国際空港からポートアイランド内会場へのアクセス



第5回世界閉鎖性海域環境保全会議 実行委員会組織図 / 名簿



実行委員会

会長	近藤次郎	(財)国際科学技術財団理事長
委員長	貝原俊民	兵庫県知事
副委員長	笹山幸俊	神戸市長
	茅 陽一	東京大学名誉教授

委員	天野明弘	関西学院大学総合政策学部教授
	岡市友利	香川大学名誉教授(瀬戸内海研究会議会議長)
	加藤三郎	株式会社環境文明研究所所長
	金子熊夫	東海大学平和戦略国際研究所教授
	熊本信夫	北海学園大学学長
	中西 弘	山口大学名誉教授(前瀬戸内海環境保全審議会会長)
	平野敏行	東京大学名誉教授
	真柄泰基	北海道大学大学院工学研究科教授(社)日本水環境学会会長)
	村岡浩爾	中央環境審議会水質部会長(大阪産業大学人間環境学部教授)
	森島昭夫	上智大学法学部教授(中央環境審議会会長)
	ベン・ヤンソン	ストックホルム大学名誉教授(スウェーデン)
	デヴィッド・キャロル	環境政策・研究管理事務所所長(米国)
	エルダール・オーザン	トルコ中東工科大学(トルコ)
	ピイアムサク・メナスヴェータ	チュラロンコン大学(タイ)
	スティーブ・ホールズ	国際連合環境計画・国際技術環境センター所長
	川口雄次	世界保健機関健康開発総合研究センター所長
	高須幸雄	外務省総合外交政策局国際社会協力部長
	川口恭一	水産庁増殖推進部長
	小峰隆夫	国土交通省国土計画局長
	竹村公太郎	国土交通省河川局長
	川島 毅	国土交通省港湾局長
	曾小川久貴	国土交通省都市・地域整備局下水道部長

石原一郎	環境省環境管理局水環境部長
福所邦彦	水産庁瀬戸内海区水産研究所長
紺谷和夫	経済産業省産業技術総合研究所中国工業技術研究所長
小和田亮	国土交通省港湾技術研究所長
大井 玄	環境省国立環境研究所長
齊藤房江	大阪府知事
木村良樹	和歌山県知事
圓藤寿穂	徳島県知事
磯村隆文	大阪市長
石井敬一	(社)瀬戸内海環境保全協会副会長 (財)広島県環境保健協会理事長)
井戸敏三	(財)ひょうご環境創造協会理事長 (財)兵庫県環境クリエイティブセンター理事長
奥西 肇	(財)地球環境センター専務理事
香本芳正	(財)大阪湾ベイエリア開発推進機構常務理事
小谷博哉	(財)国際湖沼環境委員会専務理事
石川博志	関西電力株式会社代表取締役社長(関西経済連合会常任理事)
大庭 浩	川崎重工業株式会社名誉会長(神戸商工会議所会頭)
水越浩士	株式会社神戸製鋼所代表取締役社長
領木新一郎	大阪ガス株式会社代表取締役会長
松浦克彦	神戸新聞社情報科学研究所長
植村正治	(社)海と渚環境美化推進機構理事長
田畑貞寿	(財)日本自然保護協会理事長
武田文蔵	国際エメックス推進議員連盟会長
股野景親	前特命全権大使スウェーデン国駐節
監事	岡本長興 武田薬品工業株式会社高砂工場長 野田浩一郎 徳島県出納長

運営委員会

委員長	熊本信夫	北海学園大学学長
副委員長	渡辺正孝	環境省国立環境研究所水圏環境部長
委員	川井浩史	神戸大学内海域機能教育研究センター長・教授
	津野 洋	京都大学環境質制御研究センター教授
	細川恭史	国土交通省港湾技術研究所海洋環境部長
	柳 哲雄	九州大学応用力学研究所教授
	高橋牧人	外務省総合外交政策局国際社会協力部地球環境課長
	河野修一	国土交通省国土計画局総務課長
	宇塚公一	国土交通省都市・地域整備局下水道部流域管理官
	坪香 伸	国土交通省近畿地方整備局河川部長
	福田幸司	国土交通省近畿地方整備局港湾空港部長
	柴垣泰介	環境省環境管理局水環境部水環境管理課閉鎖性海域対策室長
	秋田一民	伊勢湾総合対策協議会幹事長(三重県総合企画局長)
	野田理男	(財)環日本海環境協力センター常務理事

甲斐田國彦	全国閉鎖性海域環境保全連絡会会長(長崎県大村市長)
柿沼潤一	東京湾岸自治体環境保全会議代表幹事 (東京都環境局環境改善部計画課長)
竹本一壽	瀬戸内海環境保全知事・市長会議常任幹事(広島県環境生活部長)
小澤秀造	瀬戸内の環境を守る連絡会事務局長
小島あずさ	クリーンアップ全国事務局代表
榎屋 正	地球環境関西フォーラム事務総長
森脇君雄	(財)公害地域再生センター(あおぞら財団)理事長
玉眞 洋	シップ・アンド・オーシャン財団海洋政策研究部長
土屋隆夫	全国環境研協議会会長(東京都環境科学研究所長)
戸田氏懿	兵庫県漁業協同組合連合会常務理事
谷津龍太郎	アジア太平洋地球変動研究ネットワークセンター長
中込 治	神戸新聞社情報科学研究所研究調査部長
宮住富士夫	愛媛新聞社東京支社編集部長
清水 晃	神戸商工会議所環境対策専門委員会委員長
田中英俊	関西広域連携協議会事務局長

プログラム部会

部会長	熊本信夫	北海学園大学学長
副部会長	渡辺正孝	環境省国立環境研究所水圏環境部長
副部会長	ウェイ・ベル	米国ワシントン大学環境科学センター所長(米国)
委員	上嶋英機	経済産業省産業技術研究所中国工業技術研究所海洋環境制御部長
	川井浩史	神戸大学内海域機能教育研究センター長・教授
	楠井隆史	富山県立大学短期大学部環境工学科教授
	高山 進	三重大学生物資源学部教授
	谷口文章	日本環境教育学会事務局長(甲南大学教授)
	津野 洋	京都大学環境質制御研究センター教授
	中村栄一	国土交通省土木研究所下水道部長
	細川恭史	国土交通省港湾技術研究所海洋環境部長
	松田 治	広島大学生物生産学部教授
	三村信男	茨城大学広域水圏環境科学教育研究センター教授
	柳 哲雄	九州大学応用力学研究所教授
	ベン・ヤンソン	ストックホルム大学名誉教授(スウェーデン)
	デヴィッド・キャロル	環境政策・研究管理事務所所長(米国)
	エルダール・オーザン	トルコ中東工科大学(トルコ)
	ピイアムサク・メナスヴェータ	チュラロンコン大学(タイ)
	柴垣泰介	環境省環境管理局水環境部水環境管理課閉鎖性海域対策室長
	中川 巖	瀬戸内海環境保全知事・市長会議常任幹事(徳島県環境生活部長)
	傘木宏夫	(財)公害地域再生センター(あおぞら財団)研究主任
	小島あずさ	クリーンアップ全国事務局代表
	土屋隆夫	全国環境研協議会会長(東京都環境科学研究所長)
	中村和裕	(財)大阪湾ベイエリア開発推進機構事業推進部長
	深田富美男	(財)国際湖沼環境委員会事務局次長

宮住富士夫 愛媛新聞社東京支社編集部長
田中英俊 関西広域連携協議会事務局長

関連事業部会

部会長 川井浩史 神戸大学内海域機能教育研究センター長・教授
副部会長 清水 晃 神戸商工会議所環境対策専門委員会委員長
委員 松本俊男 環境省環境管理局水環境部水環境管理課閉鎖性海域対策室長補佐
中城勝喜 瀬戸内海環境保全知事・市長会議常任幹事(大分県生活環境部長)
安部栄治 (財)ひょうご環境創造協会専務理事
傘木宏夫 (財)公害地域再生センター(あおぞら財団)研究主任
島谷耕次郎 (財)兵庫県環境クリエイトセンター専務理事
戸田氏懿 兵庫県漁業協同組合連合会常務理事
谷津龍太郎 アジア太平洋地球変動研究ネットワークセンター長

総務・広報部会

部会長 松本俊男 環境省環境管理局水環境部水環境管理課閉鎖性海域対策室長補佐
副部会長 田中英俊 関西広域連携協議会事務局長
委員 清水 享 外務省総合外交政策局国際社会協力部地球環境課首席事務官
伊東正人 大村湾をきれいにする会事務局長(大村市環境保全課長)
山本 進 瀬戸内海環境保全知事・市長会議常任幹事(神戸市環境局参与)
小島あずさ クリーンアップ全国事務局代表
榊屋 正 地球環境関西フォーラム事務総長
春原秀一郎 日本放送協会神戸放送局放送部長
中込 治 神戸新聞社情報科学研究所研究調査部長

—— バリアフリーを目指します。 ——

第5回世界閉鎖性海域環境保全会議では、より多くの皆様に快くご参加いただくためにバリアフリーを心がけています。ご参加いただく障害者の方からのご要望等は、次の会議事務局までご相談ください。(但し、すべてのご要望にお応えできるわけではありませんので、ご了承ください。)

第5回世界閉鎖性海域環境保全会議 実行委員会事務局

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1丁目5-1

国際健康開発センタービル 財団法人 国際エメックスセンター内

TEL: 078-252-0234 FAX: 078-252-0404

E-mail: 2001@emecs.or.jp

チェックリスト

本誌には下記の用紙が挿入されていますので、ご確認ください。

発表申込書(Form A)/ 発表要旨記入用紙(Form B)

発表要旨記入例

参加登録用紙(Form C)

宿泊・ツアー申込用紙(Form D)

上記の用紙が挿入されていない場合は、次の事務局までご連絡ください。

(連絡先)

EMECS2001登録事務局

〒530-0001

大阪市北区梅田2-4-9 サンケイビル本館6F

(株)ジェイコム 企画情報室内

TEL : 06 - 6348 - 0815 FAX : 06 - 6348 - 0175

E-MAIL : emecs2001reg@jtbcom.co.jp

市民、産業関係者、研究者、行政関係者など
全ての分野の湖沼関係者が手を携えて知恵を出し合い
具体的な保全行動を創り上げていくための
意見交換を行います。

第9回世界湖沼会議



9th International Conference on the Conservation and Management of Lakes

会期:2001年11月11日(日)~16日(金)

テ - マ:湖沼をめぐる命といとなみへのパ - トナ - シップ

主催:滋賀県、(財)国際湖沼環境委員会 共催:厚生労働省、国土交通省、環境省、水資源開発公団、大津市

公用語:日本語および英語

参加登録:有料

< 会議構成 >

- 1) 全体会議: 著名な科学者等による基調講演
: 琵琶湖をモデルに、世界の湖沼問題を考える琵琶湖セッション
- 2) 分科会の構成
- | | |
|----------------|------------------|
| 第1分科会:文化と産業の歩み | 第2分科会:環境教育の新たな展開 |
| 第3分科会:飲み水と汚染 | 第4分科会:水辺の生態系とくらし |
| 第5分科会:循環する水 | |

会議への参加登録:2001年10月20日(土)まで

分科会における「発表」の募集:2001年3月31日(土)まで

問い合わせ先:第9回世界湖沼会議実行委員会事務局

〒520-8577 滋賀県大津市京町4-1-1(滋賀県庁内)
Tel:077-528-3466 Fax 077-528-4849

E-mail:info@biwako2001.com

http://www.biwako2001.com/

EMECS2001ホームページのご案内



EMECS2001のホームページは次のURLでご覧になれます。

<http://emecs2001.jtbcom.co.jp>

このホームページから簡単に「参加登録のお申し込み」「発表要旨のご提出」「宿泊・ツアーのお申し込み」などができます。また、会議の内容について最新の情報を提供しています。
是非ご利用ください。



第5回世界閉鎖性海域環境保全会議 実行委員会事務局
〒651-0073
神戸市中央区脇浜海岸通1丁目5-1
国際健康開発センタービル 財団法人 国際エメックスセンター内
TEL : (078) 252-0234 FAX : (078) 252-0404
E-mail : 2001@emecs.or.jp
URL <http://emecs2001.jtbcom.co.jp>



古紙配合率 100%再生紙を使用しています。
大豆油インクを使用しています。